

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素より、地図協会の活動に格別のご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

令和7年を迎えるにあたり、所感の一端として、我が国の高度空間情報社会のさらなる発展に向け、特に教育分野における地図の活用促進に関する展望をお伝えしたいと存じます。

現在、「デジタルツイン社会」の実現が注目されています。これは、現実空間を仮想空間に再現し、それを活用することで、効率的かつ持続可能な社会を構築することを目指すものです。この流れの中で、地図や空間情報は重要な基盤技術として、その価値が一層高まっています。防災・減災につながる地域理解やインフラ整備、地域活性化など、さまざまな分野での応用が期待されています。こうした未来を見据え、子どもたちが地図や空間情報技術を活用できる力を養うことが重要です。

地図は、単なる地理情報を示すツールにとどまらず、空間認識力や問題解決能力を育むための「視覚的知図＝思考の提供」「教育の力」を持っています。私どもは、令和5年度から6年度にかけて実施した「地形図のある学校図書館の創設」事業を通じ習得した様々な知見や実績を踏まえ、令和7年を「地図教育推進元年」と位置づけ、教育分野における地形図のますますの普及に力を入れてまいります。

本協会は、地図文化を継承し、次世代を担う若者への地図教育を充実させ、デジタルツイン社会の中核を担う人材の育成など、時代の要請に応じていきます。また、政府刊行地図等の販売普及事業や地図情報の発展にも寄与してまいります。さらに、教育関係者や図書館関係者とのネットワークとコミュニティの構築を進め、学校図書館や公共図書館を拠点にした地域と人々を地図でつなぐ生涯学習の環境整備にも力を入れていきます。このような活動を通じて、多様な価値観を尊重する社会づくりに寄与してまいります。

令和7年が皆様にとって実り多い一年となりますよう祈念するとともに、地図協会の活動が皆様のより良い生活や社会づくりに貢献できるよう全力を尽くしてまいります。

皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

令和7年1月6日

一般社団法人 地図協会

理事長 五本木 秀昭